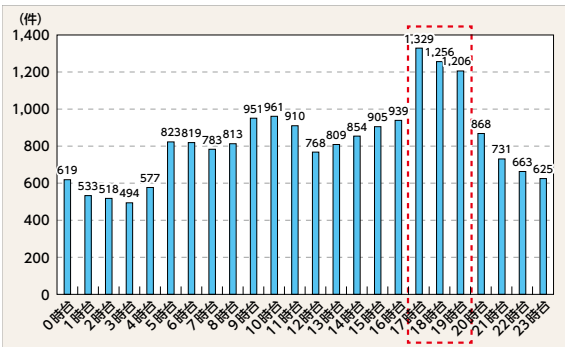




交通事故に気を付けて

はく ぼ 薄暮の時間に要注意



時間帯別の死亡事故件数（平成25年～29年）

10月以降は薄暮時の交通事故が増加

「平成30年警察白書」によると、午後5時から7時の薄暮時に死亡事故が多く発生していること

10月になり、午後5時頃にはすでに辺りが暗くなり始めています。これからの時季に気を付けなくてはいけないのが交通事故。夕方から夜にかけての薄暗い時間（薄暮時）は、1日の中で最も事故が起きる時間帯です。新たな道路の開通などで、震災前と大きく異なった町内の道路事情。交通事故を他人ごとと思わず、事故を起こさないためのポイントをおさらいしましょう。

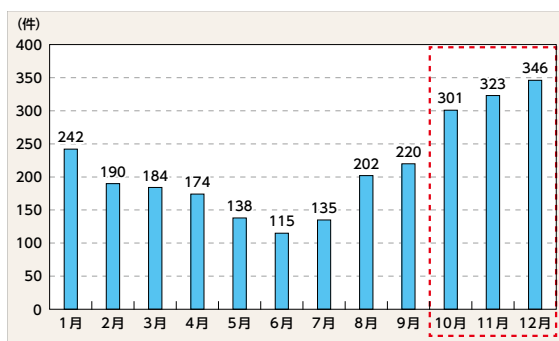
が分かります（左上表参照）。原因には、周囲の視界が徐々に悪くなり、自動車や歩行者などの発見がお互いに遅れたり、距離や速度が分かりにくくなったりすること挙げられています。

次に薄暮時間帯の月別死亡事故件数を見てみると、10月以降の3か月間に死亡事故件数が増加していることが分かります（下表参照）。日没の時間が早まるこの時季に死亡事故が多く発生する傾向にあります。

◎薄暮時間帯の死亡事故の特徴

（平成25年～29年の状況）

- ・自動車と歩行者の衝突事故が最も多く発生。
- ・歩行者の横断中の事故が約9割を占める。
- ・歩行者の横断場所の内訳では、横断歩道以外での発生が約8割。そのうち約7割が歩行者



薄暮時間帯の月別死亡事故件数（平成25年～29年）

に法令違反があった。

- ◆
- ◆
- ◆
- ◆

交通事故を防ぐためには、運転者・歩行者とも対策をしなければならぬことが分かります。

山田交番所長 インタビュー 危険を遠ざける対策を



山田交番 所長 菊池 初男 さん

山田交番でも相談を受け付けています。全ての対策に言えることは、事故の危険から自身を遠ざけるということ。悲惨な事故が起きないように、日ごろから交通安全に気を付けましょう。

1日の中で最も事故が起こりやすいのは、夕方（薄暮時）から夜にかけての時間帯です。これからの季節は日が落ちるのが早くなりますので、注意が必要です。夕方は早めのライト点灯を心がけ、夜間は原則ハイビームを使用しましょう。

運転者が事故を起こさないために気を付けることは、一時停止や法定速度で走るといった交通法規を守ることはもちろん、時間にゆとりをもつて行動すること。また、歩行者がいる横断歩道では、停止しなければなりません。自分優先の意識を無くし、安全運転を心がけましょう。

歩行者が気を付けることは、道路を横断する時は横断歩道

を使用することや道路の端を歩くこと、左右確認を必ずすることなどです。また、車から見えていなくてもという意識をもつことは大変危険です。暗い夜道は、明るい服を着るなどし、自身の存在をアピールしましょう。

近年、あおり運転が取りざたされています。あおり運転をされて身の危険を感じたときは、決してやり返さず、その場から離れたり、警察に通報するなど対応を行ってください。万一事故に遭った際の証拠としてドライブレコーダーを利用することもおすすめです。

高齢者による事故の報道も増えています。運転免許証の自主返納は、生活実態や家族と相談の上で決めましょう。

少しの工夫が危険を遠ざける

交通事故を防ぐポイント

早めのライト点灯を



早めのライト点灯は、運転者の視界を確保する効果があるだけでなく、車の存在を周囲に知らせる効果があります。自分の存在を周囲に知らせ、自転車や歩行者の飛び出しを防止しましょう。

夜道は反射材でアピール



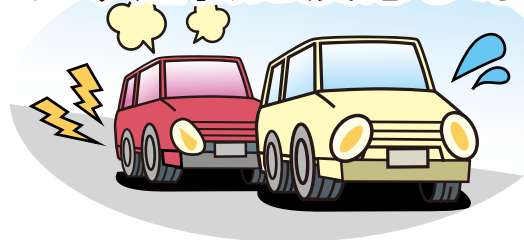
反射材を着用している歩行者は、着用していない歩行者より2倍以上手前で発見されると言われています。反射材がない場合は、白や黄色などの明るい服装で、運転者に存在をアピールしましょう。

自分優先の意識を無くす



直進車と右・左折車の関係では、直進車が優先ですが、その意識が強いと優先関係を無視して運転する車に対応できません。歩行者と車の関係も同様です。互いに譲り合いの意識を持つようにしましょう。

あおり運転に反応しない



あおり運転をされた場合は、自分で対応せずその場から離れましょう。相手に合わせてヒートアップせず、冷静な対応が必要です。危害を加えられそうになったら、ドアロックをし、警察へ通報してください。